感染症発生動向調査委員会報告　5月

≪今月のトピックス≫

- **伝染性紅斑が 2011 年以来の流行となっています。**
- **梅毒の報告が近年増加しています。**
- **ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告が増加しています。**

全数把握疾患　5月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
デング熱	1件	梅毒	3件
レジオネラ症	2件	風しん	2件
アメーバ赤痢	5件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞O26 VT1の報告が1件ありました。感染経路感染地域等不明です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。

＜A型肝炎＞1件の報告があり、経口感染が推定されています。

＜デング熱＞1件のデング熱の報告があり、渡航先(マレーシア)での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型2件の報告がありました。1件は国内での水系感染が推定(現在調査中)されており、もう1件は感染経路等不明です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件と、腸管及び腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1件の報告がありました。腸管アメーバ症の1件は国内での経口感染、もう1件は国内での感染で感染経路等不明、もう1件は中国での感染で感染経路等不明、残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。腸管及び腸管外アメーバ症の1件は経口感染が推定されていますが感染地域等不明でした。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件の報告がありました。どちらも国内での感染が推定されており、1件は同性間、もう1件は異性間の性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞70歳代の報告が5件(血清型7型1件、22型2件、他は検査中)、30歳代の報告(咽頭炎で初発し、髄膜炎発症。基礎疾患無し。)が1件(血清型検査中)ありました。すべての報告でワクチン接種歴は確認できませんでした。

＜梅毒＞3件の報告があり、1件は早期顕症Ⅱ期(丘疹性梅毒疹)で、感染経路感染地域等不明でした。残る2件は無症候期で、1件は国内での性的接触、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。

国立感染症研究所の報告によると、梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の25～29歳で多くなっています。また、男性の90%近くが性的接触による感染で、男性の同性間性的接触による感染が増加しています。横浜市でも2011年9件、2012年15件、2013年28件と増加傾向です。感染経路の大部分は、菌を排出している患者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるもので、オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。

＜風しん＞2件の報告があり、どちらも臨床診断例です。1件は幼児で予防接種歴2回有り、もう1件は10歳代で予防接種歴はありませんでした。

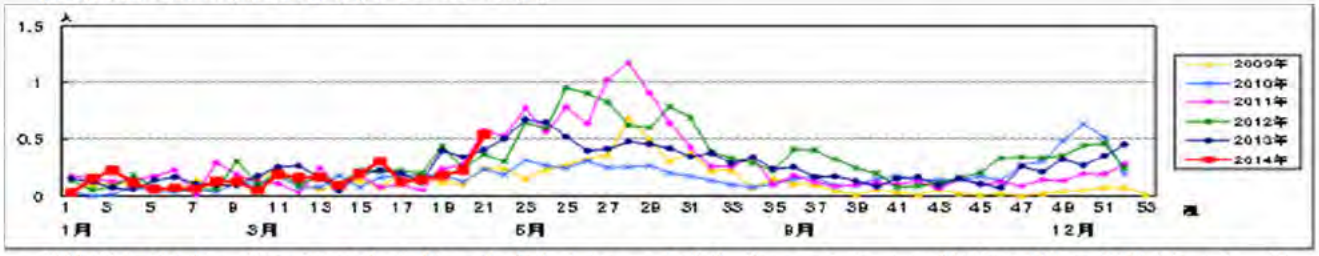
定点把握疾患 平成26年4月21日から平成26年5月25日まで（平成26年第17週から平成26年第21週まで。ただし、性感染症については平成26年4月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年	週－月日対照表
第17週	4月21日～4月27日
第18週	4月28日～5月 4日
第19週	5月 5日～5月11日
第20週	5月12日～5月18日
第21週	5月19日～5月25日

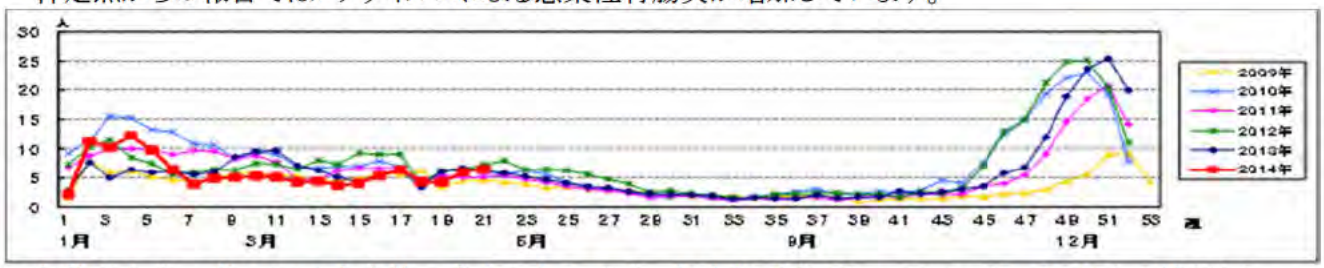
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜咽頭結膜熱＞第21週は市全体で定点あたり0.54と、やや報告が増加していますが、警報発令基準値（定点あたり3.00）は大きく下回っています。



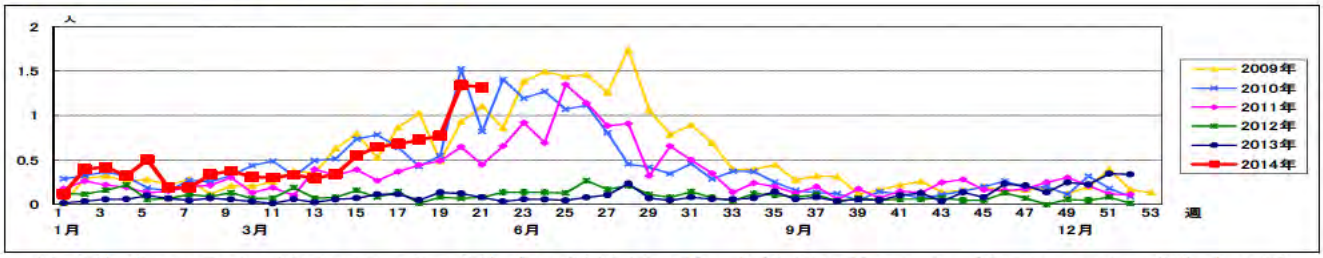
＜感染性胃腸炎＞第21週は市全体で定点あたり6.55と落ち着いており、ほぼ例年同様の報告数です。基幹定点からの報告ではロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加しています。



＜伝染性紅斑＞第21週は市全体で定点あたり1.32と、報告数が多くなっており、2011年以来の流行となっています。流行の中心は4～5歳の幼児です。区別では、神奈川区（4.83）、都筑区（4.75）、青葉区（2.86）、緑区（2.75）、瀬谷区（2.25）と5区で警報発令基準値（2.00）を上回っています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19（以下B19）感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常（胎児水腫）および流産があります。

◆伝染性紅斑について（国立感染症研究所）

◆横浜市感染症臨時情報：伝染性紅斑



＜性感染症＞4月は、性器クラミジア感染症は男性が33件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第17週0.25の他、第18週～第21週にかけては報告がありませんでした。感染性胃腸炎（ロタウイルス）は第17週0.75、第18週0.50、第19週1.00、第20週1.00、第21週0.33と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、眼科定点1件、基幹定点6件、定点外医療機関1件でした。

6月9日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表　感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状または診断名 / 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*2	RS感染症	アデノ感染症*3	胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	伝染性紅斑	発熱のみ	その他
アデノ NT*1		1			2								
					1								
アデノ 2型	1												
アデノ 6型	1												
インフルエンザ B/山形			1										
RS													
	1	1		1									
ヒューマンメタニューモ													
	1			1									
ライノ													
	4	2			1	1	1						
コクサッキー B2型	1												
ヒトボカ													
	1												
B19													
											1		
ノロ													
						5							
合計	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	3	0	2	2	6	1	0	0	0	1	0	0

上段:ウイルス分離数／下段:遺伝子検出数

*1 NT:未同定

*2 インフルエンザ(疑い含む)

*3 アデノ感染症(咽頭結膜熱含む)

【 検査研究課 ウイルス担当 】

＜細菌検査＞

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から4件、その他が2件で、腸管出血性大腸菌（O26:H21,VT1）、腸管毒素原性大腸菌（O6:H16,LT）、*Campylobacter jejuni* が検出されました。

その他の感染症は小児科から4件、基幹定点から3件、その他が23件でした。A群溶血性レンサ球菌（Ib 2株、Ⅲ 1株）は劇症型レンサ球菌でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果（5月）

感染性胃腸炎

検査年月	5月			2014年1月～5月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件 数	1	4	2	1	46	19
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			1			3
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
サルモネラ					24	
カンピロバクター			1			1
NAGビブリオ						1
不検出	1	3	0	1	21	13

その他の感染症

検査年月		5月			2014年1月～5月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件 数		4	3	23	20	17	93
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1						2
	T4	1			1		
	T6				5		
	T11	1			1		
	T12				5		
	T B3264	1			2		
	型別不能				2		
B群溶血性レンサ球菌				5			11
D群溶血性レンサ球菌				2			2
G群溶血性レンサ球菌							3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			2			8	
Legionella pneumophila							3
インフルエンザ菌							2
肺炎球菌				7	1		54
結核菌				1			1
百日咳						1	
その他			1			7	1
不検出		1	0	8	3	1	14

＊：定点以外医療機関等（届出疾病の検査依頼）

T（T型別）：A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】